

令和 2 年度

横浜市立横浜総合高等学校

自己評価書

横浜市立横浜総合高等学校

<学校情報>

1. 課程・学科 定時制・三部制・総合学科

2. 学校長 小市 聡（平成30年4月1日着任）

3. 学校教育目標

1. 一人ひとりの意欲や生活スタイルに応じた学習や諸活動を通して、生きる力を育成する。
2. さまざまな個性との出会いやふれあいを通して社会性を培う。
3. 自分の将来を見つめながら、生涯を通じて自己実現を図ることのできる資質を育成する。
4. 体験活動や探究活動を通して、創造性のもととなる資質の育成を図る。

4. 教職員数（令和2年12月1日現在）

学校長	1	臨時的任用職員	13	事務長	1
校長代理	1	再任用職員	11	事務職員	6
副校長	2	実習助手	1	技能職員	4
主幹教諭	9	非常勤職員	27	管理員	1
教諭	58	図書館職員	2	部活動指導員	4
養護教諭	1	スクールカウンセラー	1		

5. 生徒在籍数（令和2年12月1日現在）

	20		19		18		17		16・15		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
I部	67	75	56	80	63	65	14	15	4	4	443
II部	43	64	49	47	39	53	24	3	3	3	328
III部	54	46	43	24	44	25	18	15	2	1	272
9	164	185	148	151	146	143	56	33	9	8	1,043
全校生徒数			男	女	計	(内 休学 男子 2名 女子 6名 計 8名)					
			523	520	1,043						

回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		95	95	100%
生徒	I部	443	161	36%
	II部	328	118	36%
	III部	272	68	25%
保護者		1,043	428	41%
地域		50	25	50%

7. 自己評価実施日

令和2年8月下旬～11月下旬

8. 集計・分析期間

令和2年11月下旬～令和3年2月初旬

9. 自己評価書の公開方法・時期

- 令和2年12月の学校評議員会および学校評価三者懇談会で、生徒・保護者・地域の方々・教職員に学校評価集計報告を公開予定であったが、コロナ感染拡大防止のため中止となった。
- 令和3年6月に、学校ホームページに公開する予定。

<自己評価>

1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

「三部制総合学科高校として社会で自立し、貢献する力を育てます。」

「企業と連携してキャリア教育を進めます。」

□魅力ある高校教育の推進状況

(関連アンケート番号 : 教職員 1 保護者 1, 2 地域 1)

取組	<p>〈第3期横浜市教育振興基本計画や学校目標等に関して〉</p> <ul style="list-style-type: none">○基礎学力の向上<ul style="list-style-type: none">・平成27年度より「キャリア基礎（学びなおし講座）」を設置し、「まなトレ（学びなおしドリル）」も採用している。・平成27年度より基礎学力の客観的把握、学習意欲向上のために、「基礎力診断テスト」を導入している。・平成28年度より、授業研究委員会を設置し、教員の授業力向上のため、様々な研修会を実施し、全教員が熱心に取り組んでいる。・年2回の公開授業週間では、教科を超えて授業を見合うことで、授業力向上につながっている。○キャリア教育の充実<ul style="list-style-type: none">・1年次の「産業社会と人間」及び、2年次以降の「総合的な探究の時間」の中で、職業についての知識や技術を体験的に学び、自立する力を育成している。・地域における貢献活動をキャリア教育の一部に位置づけて、複数回実施している。・3年次生以上の「総合的な探究の時間」において、地元南区（南区役所、南消防署、はぐはぐの樹）から与えられた課題の解決に取り組み、ポスターセッションを行っている。・平成26年度に「横総未来博」を立ち上げてから7回目の実施となり、参加企業等も増え、生徒は意欲的に取り組んでいる。全校の生徒に進路決定に必要な知識を体験とともに修得させるよい機会となっている。・平成30年度より文部科学省の実践研究として、農業体験と漁業体験を実施している。取組内容は地域等で発表し、実社会とのつながりを持つキャリア学習としての効果を上げている。○学校環境の構築<ul style="list-style-type: none">・スクールカウンセラー、南警察署、県内児童相談所、南区役所等の外部機関や中学校との連携をより深め、迅速かつきめ細かい指導・支援を行っている。・「ようこそカフェ」については、多様化する生徒の居場所づくり、食育に重点を置き行っている。令和2年度からは、予算的措置や外部機関の全面的協力を得て、より充実した活動となっている。○保護者や地域に信頼される学校づくり<ul style="list-style-type: none">・ホームページを充実させ、学校の様々な取組を視覚的に中学生、中学校関係者、保護者に伝えることにより、学校への理解度や信頼度の向上を図っている。・市内中学校への説明を丁寧に行い、学校の魅力を伝えている。・不登校対応研修会を中学校教員向けに実施し、理解を深めている。
----	--

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートでは「魅力ある高校づくりに向けて学校全体として取り組んでいるか」の問いに対して 83%の教職員が十分またはおおむね実現できていると答えている。 ・保護者アンケートでは「教育方針や学校目標についてきちんと説明しているか」「本校の教育課程は、生徒の進路実現や適性に応じたものとなっているか」の問いに対し、いずれも 85%以上の保護者が、そう思う、ややそう思うと答え、良い評価を得ている。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、説明会や研修会が中止となり、「魅力ある学校」や「学校目標」について、研修会を通して理解を深めることや説明することができなかった。また、地域の人材を教育に活かす活動もできなかった。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の将来の在り方を検討する将来構想委員会の機能をさらに充実させ、学校全体で魅力ある学校づくりに取り組んでいく。 ・本校の学校教育目標の実現のために、学校評価委員会、学校評価三者懇談会を一層充実させ、地域を含む関係者との協力体制を構築する。 ・地域の学校理解を進めるために、地域貢献活動や地域行事への積極的な参加を継続するとともに、地域人材の学校教育への活用について検討する。 ・学校ホームページの一層の充実を図り、生徒や保護者のみならず外部の方々に情報を発信していく。 ・令和 2 年度に導入した、学校連絡・情報共有サービス（COC00）は加入率が 90%を超えているためうまく活用し、学校からのより多くの情報が保護者へ届けられるようにしていく。

2. 教育活動の状況

□教育課程の状況

(関連アンケート番号：教職員 2.3、生徒 1、生徒による授業調査)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に学校グランドデザインが完成し、教育課程委員会において、新教育課程科目の検討・整備を行った。 評価規準および評定については、将来構想委員会の研修のもと、現行の学習評価の4観点から3観点にて整備する検討に入り、全教科の成績基準の統一に向け、始動した。 学校外の学習等による単位認定については、校外講座、技能審査、高卒認定試験を単位認定し、主体的、創造的な学習態度の育成を図った。 総合学科の特色を活かし、生徒の多種多様に応じた科目設定に取り組んだ。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校グランドデザインの策定のもと、目指す学校像・生徒像の実現を図るため、教育課程委員会において、新教育課程科目の検討に入り、新教育課程表の整備が完了した。 評価規準および評定については、将来構想委員会の研修のもと、教育課程委員会を通して、評価の観点を3観点にて整備する検討に入り、全教科の成績基準の統一に向け、学習評価の在り方の検討に着手した。 コロナ禍にも対応できる充実した科目設定に向けて、受け入れ人数・TT・履修条件等の改善を行った。 卒業に向けた主体的な授業選択ができる学習意欲が高い生徒が増え、無事卒業に至った生徒が増えた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 集計の結果、「学習教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている」の評価が昨年より下がっている。「あまりできていない」から「おおむねできている」にアップさせる。 学習指導要領の改訂に伴い、3観点に整理された全教科の成績基準の統一に向け、学習評価に沿った評価規準の検討を課題とする。 コロナ禍のもと、不登校者に対する学習をどう保障し、未履修者を減少させるかの対策が課題である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校グランドデザインの実践に向けて、横浜総合高校の特色を生かした学習環境を整え、生徒の多様性に応じた学校を目指す。 生徒の関心・意欲を引き出すために、さらに充実した年間指導計画及び評価計画を作成する。 時間割の作成については、現行の教育課程科目と新教育課程科目が関連付けできるように検討し、生徒の履修希望に近づくことができるように工夫する。 未履修者の減少を目指して、魅力ある授業づくり、学習意欲の向上、進路を見据えた履修計画など、他分掌と連携しながら改善を図る。

□教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 4.5.6、生徒による授業調査)

<p>取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、工夫をしながら、学校教育目標・重点目標の実現に向けて、年間指導計画・年間評価計画を作成し、それに基づき教科指導を行った。 ・各教科のシラバスを「履修の手引き」にまとめ、科目登録説明会にて全校生徒に対して科目の説明を行った。また、「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」を通して、履修計画を立てながら科目登録指導を行った。 ・コロナ禍の中、生徒の実情に応じて、指導内容・指導方法・教材等を工夫するなど、わかりやすい授業への取組を行った。 ・コロナ禍の中、各教科がオンライン動画を作成し、学習機会の保障を図った。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容への理解を深め、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」にて個々の進路に応じた履修計画を立て、目的意識を持った科目登録を行うことができた。 ・ICTを活用する授業が増え、様々な取組が授業力アップにつながり、生徒の実態に応じたわかりやすい授業の実践がみられた。 ・集計の結果より、教科指導の「指導計画」、「評価評定」において一定の評価がみられた。毎年、各教科にて「年間指導計画」および「年間評価計画」を作成しているが、この結果を維持するとともに、新教育課程の観点別評価の整備に取り組んでいきたい。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集計の結果、教科指導の「取組」の評価が昨年より下がった。毎年、各教科では、工夫を凝らした授業の取組を行ってはいるが、この結果を真摯に受け止めて、マンネリ化しないような、さらなる工夫を施した授業内容に取り組まなければならない。 ・未履修者数を減らすことは、継続的な課題となっている。履修登録時の指導、わかりやすい授業への取組など対策が望まれる。 ・新教育課程の導入が迫っており、現行の教育課程科目と新教育課程科目が関連付けできるよう検討し、生徒の履修希望に近づくことができるように工夫することが課題となっている。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標の評価向上を目指して、教科・委員会・分掌と連携し、学校全体として組織的に取り組む。 ・教科指導の「取組」については、各教科が工夫を凝らし、生徒の実態に即した授業の取組を研究し、実践できるよう取り組む。 ・学習に対する興味関心を高め、将来を見据えた履修計画を作成し自ら学ぶ姿勢が身につくように、魅力ある授業への取組など学習意欲を高める工夫を継続して検討する。 ・ICTの授業をより多く活用し、指導内容や指導方法のスキルアップを図る。

□特別活動の状況

(関連アンケート番号：教職員 7、生徒 3、保護者 5、地域 1.2.3)

取組	<p>令和2年度はコロナ禍において、かなり生徒会活動が制限される中、それでもできる範囲内で委員会活動や生徒会行事を生徒が主体的、自立的に動けるかたちで行った。</p> <p>1. 委員会活動</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒会執行部では、臨時生徒総会、文化祭企画、クリスマスイベントなどの計画から実施までを主体的に運営し、明るい学校生活づくりに努めた。また各種委員会と連携し、行事や生徒会活動の活性化に励んだ。・代議員会では、週に1回の幹部会、月に1回の全体会を通して、より良い学校生活の実現について話し合った。・美化委員会は週4日の校内清掃活動を実施した。・横総祭実行委員会、スポーツ祭実行委員会は横総祭を盛り上げるための参加型企画を企画・運営した。 <p>2. 生徒会行事</p> <ul style="list-style-type: none">・横総祭（文化祭）は、文化部系の発表・展示を中心に、飲食企画禁止、一般公開無し、開催期間の短縮などのコロナ感染防止に配慮した通常とは違う代替内容で実施した。・新入生歓迎会、生徒会役員選挙など、例年は体育館で全校生徒を集めて行う行事もクラスごとの各教室において放送を聞く形で実施した。
----	---

<p style="text-align: center;">成果</p>	<p>1. 教職員の評価</p> <p>「生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している」令和元年度は82%であったが令和2年度は77%と下がってしまった。（集計表1ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、あらゆる行事が縮小化または中止となり、合わせて放送で行うなどの例年とは違う方法での実施が多く、生徒会顧問としても顧問同士の確認を優先しながら、初めてのやり方を模索しての実施であったために、生徒への情報発信が遅れてしまった。 <p>2. 生徒の評価</p> <p>「あなたは生徒会活動や委員会活動を主体的に活動していますか。」（令和元年度41%であったが令和2年度は32%と下がってしまった。集計表2ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由な校風の中、実行委員会を中心に積極的に企画を立て、主体的に運営したり、チャレンジする生徒が年々増加していたが。令和2年度はコロナの影響でそのような生徒が活躍できる機会が減ってしまった。 <p>3. 地域の評価</p> <p>「学校は地域の人材や施設を教育活動に活かしていると思いますか。」（令和元年度83%であったが令和2年度は68%と下がってしまった。集計表4ページ）</p> <p>「学校は文化祭等の学校行事を活用し、地域から信頼される学校を目指していると思いますか。」（令和元年度95%であったが令和2年度は80%と下がってしまった。集計表4ページ）</p> <p>「学校生活が楽しそうで、生き生きとしている様子の生徒が多いと思いますか。」（令和元年度93%であったが令和2年度は76%と下がってしまった。集計表4ページ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭は何とか実施できたが、コロナの影響で一般公開無しであり、また地域のイベントも軒並み中止で、音楽系の部活動等の交流参加もほとんどできなかった。そのため外部の方が実際の生徒が活躍している姿を見る機会が例年に比べて極端に減ってしまったことが要因であると考えられる。
<p style="text-align: center;">課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動そのものは充実してきているものの、主体的に参加する生徒の割合はなかなか増えておらず、一部の生徒の参加にとどまっている場面も多い。ホームルーム単位での活動が少なく、まとまりを作る場面に乏しい現状では、生徒会活動への参加方法を工夫し、より多くの生徒を巻き込んだ活動を行っていく必要がある。活動場所と時間を確保することは継続した課題である。 ・地域、保護者へより本校の生徒会活動を理解していただくために広報活動を拡大していく必要がある。

<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は様々な活動の中で、コロナ感染防止のために例年とは違う方法で実施せざる負えない場面が多くあった。しかし、例えば今までは、体育館に全校生徒を集めて行っていた行事も放送で行うことで、かえって生徒が落ち着いた中で集中して参加できることもあり、コロナ禍であったからこそその方法も、今後活かせる部分は取り入れていくことを検討する。 ・LHR等を活用し、生徒会活動に対する生徒の意識の向上を図り、より多くの生徒が主体的に参加できるように支援を行っていく。 ・横総祭やスポーツ祭の活動内容を精選し、生徒会活動に消極的な生徒をより取り込んで参加できるように意識を高めていく。 ・部活、同好会の活動をHP等で発信することで活性化を図る。 ・横総祭や部活動、ボランティア活動を通して地域と関わる場面をこれまで以上に活発にし、地域に貢献する活動を継続して行う。また、その活動を発信する。
------------	--

□生徒指導・教育相談の状況

(関連アンケート番号：教職員 8,9、生徒 2,4,5、保護者 4,6)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休校措置に伴って生徒が抱える不安やストレスを和らげるため、普段以上の見守り・声掛けに取り組んだ。 ・普段以上に不安やストレスを感じている生徒の心のケアに対処するため、教育相談を充実させ、生徒指導部、保健室、SC、さらにはSSWとの連携を密にし、相談しやすい環境づくりに努めた。 ・ますます多様化する複雑な問題を抱えた生徒に対して、常日頃からの声掛けにより、些細な変化を見逃さないように取り組んだ。 ・生徒間や地域とのトラブルの未然防止、生徒のマナー向上を第一に考え、全職員で定期的に校外巡回に取り組んだ。 ・各部代表による情報の集約と方針の確認、I部からIII部までの指導の統一（「ブレない指導」）など、生徒指導体制をさらに強化した。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談体制の充実により、生徒からの早めの相談が増え、教員やSC、SSWによる早期対応を行うことができた。 ・生徒指導部の各部代表を中心に情報を共有することができ、指導部として統一した方針で指導に当たることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる基本的な生活習慣の育成が必要である。 ・登下校時の交通ルールの厳守や歩行者への配慮、住宅付近での行動のマナー、また、近隣の迷惑にならないような行動の心がけについての、地域の評価が15%前後下がっている。校外での生徒のさらなるマナー向上が求められている。 ・地域との様々な交流活動を今後も続けていく。 ・ますます多様化する複雑な問題を抱えた生徒に対する相談体制の更なる充実が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生徒指導や教科指導を通して規範意識をより一層高めさせる。 ・異年齢との関わり・異空間の体験等、地域との交流活動を通して、多くの価値観に触れ、判断能力の育成に繋げていく。 ・生徒の実態に合わせた相談体制の見直しを進めていく。 ・登下校のマナーを向上させ、近隣の迷惑になるような行動を取らないよう、手立てを講じていく。

□進路指導の状況

(関連アンケート番号：教職員 10 、生徒 6 、保護者 7)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (1年次) 基礎力診断テストとマナトレは導入6年目は休校中の対応となったが、自宅学習に活用した。コミュニケーション講座については制限の多い中であつたが、工夫をして学年全体の交流に成功し、新入生の所属意識を高めた。職場見学では、探究单元として内容を刷新し、オンラインを活用しながら実施した。その他、SDGsを活用した探究单元を新規に立ち上げた。 ・ (2年次) 制限が多い中、探究型のキャリア講座を充実させ、進学就職ともに明確な見通しを持てる内容にした。進路についての調べ学習の機会を増やしたり、発表の機会を多く確保している。また、国際理解教室を、グローバル探究と改称しオンラインを活用した探究单元に刷新した。 ・ (3年次以上) 卒業予定の就職・進学希望者を分割し講座展開した。また次年度以降の卒業予定者の集団にも別講座を実施。今年度はオンラインやDVD教材を活用して感染予防に努めた。卒業に向けての課題探究学習は、地域課題解決に向けたグループワークとポスタープレゼンを行っている。令和二年度は南区役所と南消防署の協力を得て課題を設定した。 ・ (全生徒対象) オンライン併用型の横総未来博を実施し、生徒の進路選択の動機づけを行った。 ・ (教職員) 休校の影響で進学及び就職の研修会複数回を実施できなかったが、随時職員間の情報共有を密にし、進路支援業務を進めた。 ・ (学校組織) 29年度から、進路指導部とガイダンス部を合併しキャリアガイダンス部を新設。より系統性の高い一体化した進路指導を行える体制を整えた。同部内に、就職支援担当と進学支援担当を置き、各年度部の担任団との連携強化が進んでいる。 ・ (保護者) 保護者ガイダンス時に進路に関する情報提供を実施した。三年次以上の進学とお金に関わる講座は、保護者の参加も促し生徒とともに授業を受ける形をとった。また、横総未来博では、コロナ禍にもかかわらず約40名の来場があつた。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ (生徒) 休校や制限の多い中であつたが、進路に関する情報への理解度は例年と変わらず高い評価を維持することができた。 ・ (教職員) 昨年より3%上昇した。コロナ対応によって各教室でキャリア教育を展開する授業が増え、多くの教職員が進路に直接的にかかわる機会が増えていることも背景の一つと考えられる。 ・ (保護者) 毎年上昇している。保護者を巻き込む仕掛けを多く打っており、年々その参加者も増えていることが影響していると考えられる。

<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 現行のカリキュラムが9年目を迎え、大幅なカリキュラム改変の検討が終了した。次年度より前倒しで新カリキュラム対応のガイダンスを進めていく。また、貧困・発達障害・外国に繋がる生徒等、さまざまな状況にある生徒がいる本校の特性を勘案し、個に応じた支援を充実させていく必要がある。そのためにも、本来産社総合の授業は、授業者評価者ともに担任であるので、全体ではなく担任がホームルームで展開できる授業を今後も増やしていく必要がある。・ (卒業年次生) 就職支援にせよ、進学支援にせよ、キャリアガイダンス部の担当者だけではなく、該当学年の全職員で取り組んでいく必要がある。そのための職員研修を行うことや、日頃の連絡を密に行っていく必要がある。
------------	--

□保健指導及び環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員 11,12 、生徒 7,8 、保護者 8,9)

取 組	<ul style="list-style-type: none">・学校保健計画に則り、新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、定期健康診断（2回に分散方式）、薬物乱用防止教室（校内放送）、保健教室（ワークシートの提出）などを行い生徒の心身の健康の保持増進に対する取り組みを行った。・新型コロナウイルス感染症など学校感染症に対する啓発・予防活動と発生時の対策について取り組みを行った。・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育推進委員会、校外関係諸相談機関と連携して、心身の健康相談活動の充実に努めた。・環境美化の維持・整備として、校舎内外の清掃活動の年間計画の立案、実施状況確認、安全点検に取り組んだ。・ゴミの持ち帰り指導などの取り組みを行った。・生徒会など他の分掌と連携して学校環境づくり（美化委員会指導）の取り組みを行った。
-----	---

成 果

- ・ 定期健康診断では、身体計測を6月に実施し生徒にも職員にも感染症対策意識を喚起させることに努めた。令和2年度6月実施で受診率（Ⅰ部は、98.3% Ⅱ部は90.2% Ⅲ部は84.3%）は微増ではあるが前年を上回る結果となった。休校明けの実施だったため、生徒の学校生活への意識の高まりの成果と思われる。
- ・ 生徒への健康管理活動として薬物乱用防止教室と保健教室を実施した。薬物乱用防止教室では、校内放送とスライドショーによる方式を取り、薬物が身近に潜んでいるという現状、一度の使用で人生をかえてしまうという危険性を伝えるとともに、薬物乱用防止への理解を深めることができた。保健教室では、人権教育推進担当と共同開催とし「心のセルフコントロールと自己肯定感」について学んだ。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策をメインに取り組みをおこなった。第1期から現在に至るまで、教職員全員で校内施設や備品の消毒を行い、HR教室や教科の特別教室の机イスの配備替えをおこなった。生徒にはマスクの着用と手指消毒の徹底を指導し、健康観察票の提出を義務化した。保健だよりによって啓発周知したうえ、文化祭で生徒会指導部と連携して、消毒薬の配布を行い、手指消毒の重要性について指導をした。また、当日は薬剤師と校内巡回を行い、空気中の二酸化炭素の計測をして、感染症の発生予防に努めた。
- ・ 清掃活動やゴミの分別回収活動については、まず、ゴミは持ち帰りを徹底させ、SHRで担任と生徒で清掃活動を行うためのチェック表を毎月配り、教室環境の清潔保持に努めた。月1回は大掃除ができるように、時間を設定した。また、生徒会指導部と連携し、週4回の美化委員会活動で清掃やゴミの分別などを行い、清潔な環境づくりができた。
- ・ 保健指導部職員による毎月の分担活動では、校内巡視を行うことによって手洗い場、食堂、トイレを中心に校内の清潔美化に取り組み、校内環境の向上ができた。フリースペースや指導センター前に設置されたゴミ箱の分別のマナーが向上した。

課 題

- ・健康管理・指導の項目において、職員の評価項目11（P1）については、令和元年度は88％で、令和2年度は84％となった。生徒の評価項目7（P2）は、令和元年度は82％で令和2年度も82％であった。職員、生徒とも横ばい傾向となっている。保護者の評価項目8（P3）は、令和元年度は71％で令和2年度は75％となった。4年連続で数値が上がってきているが、職員や生徒評価より低いので、保護者にもっと伝わる工夫が課題と思われる。
- ・定期健康診断の受診率が向上してきてはいるが、要精密検査・受診勧告をしても、受診しないケースもあり、引き続き検討が必要である。
- ・多様な生徒を抱えていることから、メンタルヘルスについての取り組みを充実させていく必要がある。保健教室で取り上げ、多くの生徒・教職員からは高評価を得られたが、どのように継続していくことができるかが課題と思われる。
- ・生徒の健康管理面の指導として行われている薬物乱用防止教室、保健教室の実施内容や実施そのものが保護者に理解され難い面もある。保護者が理解しやすい形式への検討も必要である。
- ・環境美化項目の保護者項目9（P3）で令和元年度88％であったが、令和2年度は84％で横ばい状態といえる。職員項目12（P1）、生徒項目8（P3）については評価が横ばいしている状況なので、さらなる啓発活動に対策を講じていく必要がある。特に職員同士連携を取って、全職員で学校環境について取り組む協力体制を構築することが課題である。
- ・授業内容や教育課程によって、日常清掃活動の時間の確保がしづらい面もあることや、ゴミの分別の徹底、ゴミの散乱が多少目立つことがあるので検討が必要である。
- ・基本的な生活習慣の確立が出来ていない生徒が多く、特に睡眠不足による体調不良を訴える生徒が多いため指導が必要である。また長らく自粛生活で昼夜逆転の生活になり、自律神経系に失調をきたしている生徒が増えている。

<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度は生徒全員が、定期健康診断を受診するように全教職員で協力して事前指導と事後指導を行い生徒への健康管理の意識づけを徹底する。 ・メンタルヘルスの取り組みとして、スクールカウンセラーや関係機関との連携を充実させたり、保健教室などで継続的に取り組んだりすることを検討する。 ・生徒の健康管理活動として実施している薬物乱用防止教室、保健教室に保護者が理解を得やすいように計画を立てる。 ・清掃活動の取組として、時間帯と清掃箇所・内容の検討と日常生活での環境マナーについて、集会やHR活動で意識づけをする。
------------	---

3 学校経営の状況

□教育目標の設定・実施状況

(関連アンケート番号：教職員 13,14 、生徒 9 、保護者 1,3)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標（「一人ひとりの意欲や生活スタイルに応じた学習や諸活動を通じて、生きる力を育成する」、「様々な個性との出会いやふれあいを通して社会性を培う」「自分の将来を見つめながら、生涯を通じて自己実現を図ることのできる資質を育成する」「体験活動や探究活動を通して、創造性のもととなる資質の育成を図る」）、経営方針については、年度当初の職員会議等で確認し、本校の教育活動で実現するよう取り組んでいる。 ・学校教育目標、経営方針について、入学者のオリエンテーション等で説明し、生徒、保護者に周知を図っている。 ・職員会議、学校評価委員会を通じて、学校教育目標と共に第3期横浜市教育振興基本計画における本校の使命（到達目標等）を周知している。 ・キャリアガイダンス部を通じて、本校の重点施策である「キャリア教育の充実」を周知、実践し、生活面や進路面に反映させている。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の、教育方針や学校目標への理解は83%であり、おおむねご理解を得ていると考えている。また、保護者から見た学校に対する満足度も93%で高い評価を得ている。 ・学校教育目標の実現に向けた全教職員の取組（67%）、経営方針に基づく協力した取り組み（76%）は令和元年度より良い値となり、少しずつではあるが教職員が学校教育目標や学校経営方針を意識して取り組んでいると思われる。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校生活に対する満足度は93%だが、生徒の満足度は73%にとどまっている。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標、教育方針については、日々の教育活動、PTA活動、学校ホームページ等を通して生徒や保護者、地域へ周知し理解を深めていくよう努める。同時に職員の理解をさらに深めていくための研修や会議の機会を設け、様々な教育実践の中で確認していく。 ・将来構想委員会等において、学校教育目標や第2期横浜市教育振興基本計画等を念頭に置いた本校のあるべき姿を再確認し、教職員が一体となって目標達成をめざす組織体制をつくる。 ・新学習指導要領を視野に入れ、より分かりやすい授業、楽しい授業を展開することにより、生徒の満足度の向上を図る。 ・学校が生徒にとって安心できる居場所の一つとなるよう「ようこそカフェ」の充実等に取り組む。

□組織運営及び教職員研修の状況

(関連アンケート番号：教職員 15～18)

取組	<ul style="list-style-type: none">・担任団、分掌、委員会等は「重点目標」「具体的な手立て」を理解したうえで業務を遂行している。・各種教職員研修を実施し、学校の問題点や将来的な課題についての内容の見直しと改善を図っている。・時間的制約が多い中、全教職員の協力のもとに会議を遂行し、共通理解を深めている。・校内グループウェアを活用し、情報の共有や会議時間の短縮などを行っている。・授業研究委員会を設置し、授業力向上のための研修や、メンターチーム研修を積極的に行っている。
成果	<ul style="list-style-type: none">・校内の研究・研修については、互いに授業を見合い評価する体制を整えたり、より多くの教職員が研修に参加できるよう内容の充実や時間設定の工夫を行ったりしている。
課題	<ul style="list-style-type: none">・短時間ではあるが、定期的な研修を行うことより、生徒に関する情報交換から教職員の不祥事防止に至るまで、問題の共有や対策など一定の成果を上げているが、一層の充実を要する。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・組織の見直しと運用の方法を改善することにより、能力と適性を生かした適材適所の人員配置をする。・生徒の実態や教育課題を踏まえ、研修の内容や時間確保について発展的に検討する。・前勤務と後勤務の勤務時間の効率的な運用など、勤務の特色を踏まえた業務分担を検討する。・授業力向上や生徒指導、特別支援教育等に関する研修については、メンターチームを活用するなどして積極的に実施していく。・教職員の不祥事防止研修については、繰り返し行うことにより意識のさらなる向上を図る。

□学校経理の状況

(関連アンケート番号：教職員 19、20、保護者 10)

取組	<ul style="list-style-type: none">・ 予算委員会を設置し、市費配当 2 年度予算の適切な編成ならびに公正な執行を行った。・ 予算委員会は、各部署からの予算請求を取りまとめ、それらを精査しつつ査定作業を行うとともに、必要に応じて各部署とのヒアリングや折衝等を行い、令和 2 年度市費予算案を作成した。この予算案を職員会議に諮り、承認を得たのち、各教職員には速やかな予算の執行を促した。・ 物品の発注は、職員会議で承認された予算案に示されているもの限り、事務の担当者のみが市の指定業者との間で行った。・ 予算確定後に予定外に必要な物品等が生じた場合は、予算委員会が、予算の執行状況や残高状況等を勘案して別途検討し判断した。・ 物品の発注は生ものや季節もの、インクやトナーなどの特別な事情があるものを除き原則 9 月末までに行うこととし、予算委員会は 1 月に予算の執行状況を見極め、残高に応じて補正予算を作成し対応した。・ 決算報告書は、次年度当初に学校のホームページで公表する。
成果	<ul style="list-style-type: none">・ 2 年度の職員の学校評価では、予算編成の満足度は元年度に比べ 5 % 増加の 88 %、会計報告の満足度に関して本年度は 1 % 増加の 74 %、また、会計報告に関する保護者の学校評価では、満足度が昨年度より 9 % 減の 80 % となった。(集計表 1 ページ、3 ページ)。
課題	<ul style="list-style-type: none">・ 増加の一途をたどる消耗品費の中で、特に印刷室にかかわる物品の増加大きな要因となっている。紙類の使用については、節約を呼びかけてはいるものの、個人情報や機密情報の漏えい防止の観点から、裏紙の使用を積極的に呼びかけることもできず、その対策が大きな課題となっている。・ 今後修繕等に関わる支出の増大が見込まれるなか、学校の重点施策への予算の重点的配分など魅力ある予算編成をするうえで、消耗品費の増大は大きな障壁となっている。いかに消耗品費を減らしていくかが大きな課題でもある。・ 車椅子等を使用する生徒の入学が年々増加しており、施設・設備面での対策が必要であるが、予算的な裏付けもなく、困難な状況にある。・ 防災関連の整備が急務となるなか、限られた配当予算のなかではこれを予算化できないことは大きな問題である。防災用品の整備ならびに防災用品の保管庫の確保に向け継続的な取組を行っていく。

改善策	<ul style="list-style-type: none">・ 当該年度の目標や重点施策にかかわる請求を優先的に予算化するとともに、不要不急な支出をできる限り減らすなど、限られた予算内で、魅力ある予算配当と効率的な予算執行を実現する。 用紙類、インク・トナー類は、引続き節約に努めるとともに、消耗品の節約および予算の有効活用に対する職員への啓蒙を図っていく。
------------	---

□施設・設備の状況

(関連アンケート番号：教職員 21、生徒 10、保護者 9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新校舎移転から7年以上が経過するなか、新たに整備が必要だと判明した箇所を整備した。 ・ 校内の災害時の対応を向上させるため、備蓄品及び棚の増設、給水配管の整備などに配慮した取組を行った。 ・ 安全な授業ができるようグラウンドのわだち等の改善、校舎笠木などの修繕にも取組んだ。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年度の学校評価における施設・設備面での満足度は、生徒による評価は90%、保護者による評価では元年度より4%減の84%、職員による評価では元年度と同様の83%となるが、生徒・保護者・職員ともに学校の施設・設備にはほぼ満足していることが伺える（集計表1・2・3ページ）。 ・ 新校舎移転から7年以上が経過したが、いまだ新校舎のイメージが定着できるほど校舎が比較的きれいに保たれ、なおかつ学習面や生活面で障害となるような問題も生じていないためとみている。 ・ 学校行事等に支障をきたさないよう金網フェンスの修繕を行う。 ・ 校舎等の機械警備に向けて、駐車場側の脇扉に手動式の押しボタン式の錠前の整備も行う。 ・ 教室等に設置されている空調機等のフィルター清掃を行い、生徒の学校生活における健康への配慮をした。 ・ 感染症対策の一環として、普通教室等に網戸を設け通風の改善に取り組む。 ・ 安全対策強化の観点から、消防設備の保守点検を行った。また生徒の安全を向上させるため、校内点巡回点検の強化を図る。 ・ 校内の緑地を維持させるため、樹木の伐採と剪定などにも取り組む。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「新校舎」というイメージが先行するなか、年々修繕や再整備が必要となる箇所も増している。このような中で、限られた予算の中から、いかに有効に教育環境の整備にまわせる費用を捻出することができるかが大きな課題である。 ・ 普通教室の生徒用机椅子等に関して、傷みなどあるのか定期的に点検を行う。 ・ 近年の集中豪雨において、円滑な雨水排水ができるよう排水設備等の点検および修繕等の予算確保ができるかも課題となる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・備品の整備に関しては多額の予算を必要とするため、他の予算を大きく圧迫する恐れがある。このため、当該年度の目標や重点施策との関わりなどから、優先順位を設けたうえで、長期的視野のもと整備を行っていくことが必要と考える。

□情報管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 22 生徒 11)

取組	<ol style="list-style-type: none">1. 学校と保護者の連絡システム (COC00) 導入<ul style="list-style-type: none">・今年度 (令和 2 年度) COC00 の導入より学校と保護者間の連絡システムが整った。保護者からの欠席連絡、学校からのお知らせ配信を容易に行うことができ、情報伝達が容易になった。2. Google の個人アカウントと学校サービスの利用<ul style="list-style-type: none">・Google のサービスである Form, Classroom, Drive, Meet, 学校 Youtube 等の利用体制を整えた。生徒個人に id, password を配布した。3. YCAN NAS の入れ替え<ul style="list-style-type: none">・教員用 PC である YCAN のファイルサーバーとして新しい NAS を予定している。NAS の引っ越し、および関連作業等を安全かつ確実な作業を行った。4. 職員の情報モラル、ICT リテラシー強化<ul style="list-style-type: none">・YCAN PC、および付随するソフトウェア、周辺機器の使用状況の報告や管理を行い、ガイドラインに従って正しい使用を全職員向けに啓発した。・使用許可されている USB メモリ、個人所有の機器等の使用禁止については年度当初だけでなく都度ごとに確認した。・ICT リテラシーの観点からも最新の情報の取得、ファイル容量への配慮等の点からミライム掲示板の活用を推進した。・事務と連携を取り合いながら YSAM によるアラートのインベントリ収集を行った。・ミライム (教職員向けグループウェア) を活用することで校内の情報伝達の合理化、迅速化を図り、不用意な情報の流失、分散等の防止に努めた。5. 環境的脅威からのシステム保守<ul style="list-style-type: none">・停電や台風等の自然災害による業務停滞被害がないように、サーバーの復旧やデータ保護、管理、バックアップを計画的に実施した。6. 旧 YCAN PC のリユース<ul style="list-style-type: none">・情報機器の更新では旧 PC を単に廃棄するのではなく、3R の観点から再使用できるように完全なデータの消去や OS のインストール等を施して使用可能な状態にし、資産番号を付けて校内貸し出しを行った。
	<ol style="list-style-type: none">7. 他分掌等の ICT サポート 教務部の成績管理システム、コロナ休業中の教科課題を H P へ掲載、日々の P C 使用の問い合わせ、故障対応の支援をした。

<p style="text-align: center;">成 果</p>	<p>職員の情報モラル、ICTリテラシー強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より教科、分掌各1本ずつ使用できるようにUSBを準備し、副校長に管理していただいている。各部署での責任の所在と利便性が高まった。 ・ミライム（教員向けグループウェア）を活用することで情報伝達、アンケート等において合理化、効率化、ペーパーレス化の効果が得られた。 <p>環境的脅威からのシステム保守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバ室内の温度管理および自然災害による被害がないように予想される台風や停電の前にサーバの電源オフと、オンのために早朝の復旧作業を行い、業務がスムーズに行えた。 <p>他分掌のICTサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着任の先生方や校務分掌の異動で部屋の変更があった先生方に、年度初めプリンタドライバの設定説明会を行い、業務がスムーズに行くように努めた。 ・GoogleフォームとZoomの使用についての説明会を行い、業務の効率化を推進した。 ・成績管理システムが今年度7月に新しいシステムになった。それに伴い、ターミナルの職員室への配置や配線を行った。 ・新YYネットワーク（Wi-Fi）の教室や大教室への配置を行った。
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<p>「情報セキュリティ強化について」策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人所有の携帯電話やスマートフォンからの連絡や個人所有のPC持ち込み使用については、生徒・保護者間のトラブルや情報漏えいにつながる可能性が高いので、管理職の判断をもらってから行う必要がある。周知・徹底を研修等で行い、職員全体の意識を高める必要がある。

改善策	<ul style="list-style-type: none">▪ ネットワーク管理やシステムについては、専門の人材を確保しているわけではない。一部の職員や学校組織への負担とならない人事要求が急務である。▪ 携帯電話等の情報機器の使い方については生徒間トラブルの大きな原因ともなっており、もはや個人情報の管理については分掌を超えた連携を教科、学年団を巻き込み、学校ぐるみで図っていく必要がある。
------------	--

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員 23, 24、生徒 13、地域 4, 5, 6)

取 組	<ul style="list-style-type: none">・例年、入学式後にPTA委員決meを行っているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で入学式に保護者が参加できず、委員決meを行うことができなかつた。6月末になんとか新入生保護者説明会を開催することができ、そこで委員決meを行うことができた。・各委員会の人数の均等化が令和元年度からの課題であったが、その反省点を受け、均等に各委員会に割り振ることができた。・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年5月に行っている「学校生活説明会・年度部懇談会・PTA定期総会」を開催することができず、コク-を利用して書面評決方式でのPTA総会を行った。・PTA広報誌、各委員会からのお知らせなどは、例年は各家庭に直接郵送していたが、令和2年度は経費削減のため、生徒を通じての配付とし、より確実に保護者の手元に届くよう、配付した旨のお知らせをコク-でも掲載した。・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定していたPTA会議が思うように行われなかつたが、検討課題であったPTA関連の会議の開始時刻を19時に変更するなどの試みを行った。・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、市高P連や3市高P連の活動が中止となり、それに伴い、本校PTA活動も思うように行われなかつた。・年度部委員会の活動は行わなかつた。・文化祭において例年は、地域に開かれたPTAを目指し、行事サポート委員会主催のバザ-、飲食販売を行っているが、令和2年度は行事サポート主催のバザ-のみ小規模に行った。ここ近年行っていたPTA活動の取り組み等のパネル展示やPTA広報誌の展示、PTA役員OBによる喫茶店にて過去の活動や校歌の紹介、PTA新旧役員と有志による「なんでもステージ」等は行わなかつた。・生涯学習委員会主催で、ミュージカル観劇会を行った。令和元年度に年度部委員会の活動と時期が重なつたこと反省を受け、令和2年度は1回の開催を計画した。・広報委員会による「飛翔」の制作はスポーツ祭が中止になつたため、教職員紹介とPTA役員紹介のみの書面にした。
-----	---

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度末にコクーの導入と資金援助をPTA全体会で承認していただき、図書情報部のご尽力のもとコクーを導入できたことで、様々な情報発信をスムーズに行うことができた。PTA総会もコクーによる書面評決方式で行うことができ、例年担任の先生方にお手数をおかけしている委任状集めも速やかに行うことができた。また、今まで郵送で行っていた議案書の送付もコクー上に添付資料として掲載することができ、経費削減に大いに役立った。 休校の影響等で会議を行えず、活動に支障をきたす場面もあったが、PTA役員や委員長をはじめ、各委員の皆様の努力により、PTA総会で承認された事業計画案をほぼ実施することができた。 生涯学習委員会主催行事では、魅力ある内容のものを発信できたために、多くの参加者を得ることができた。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> コクー導入により、情報発信をスムーズに行うことができ、今までの課題であった「より多くの保護者への広報活動」について、ある程度達成できたが、コクー未登録の家庭には今後も登録を促していく努力がPTAとしても必要かと思われる。一方でHPの活用はPTAとしてはできていなかった。これは、地域の集計4,5,6の結果が著しく低下した原因との一つとも考えられる。コクーとHPを上手く併用していくことが課題である。 勤務時間の多様性のため、会議の開始時刻18時には間に合わないとの声も出ていたため、令和2年度はPTA関連の委員会開始時刻を19時に変更したが、会議自体の回数が少なかったため、各委員会での運営に影響が出ないかどうかの検証ができなかった。今後も引き続き検証を行っていく必要がある。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で活動が思うようにできなかったことが、次年度からの活動や委員募集にどのように影響を及ぼすのか不明であるが、いかにして保護者にPTA活動に関心を持っていただき、学校に足を運んでいただくかが、とても大きな課題である。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> コクーでの保護者への連絡を確実に行っていくとともに、HPにPTA活動に関する情報をよりタイムリーにアップする。 PTA関連の委員会開始時刻を19時に変更したことで、それぞれの委員会での運営に影響が出ないかどうかの検証をしていく。 多くの保護者にPTA活動に興味・関心を持っていただけるよう、開催日時の検討や、魅力ある行事の選定、広報活動等の工夫を行う。

□危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員 25, 26、生徒 12)

取組	<p>1. 不審者対策</p> <ul style="list-style-type: none">・集会やポスターの掲示により生徒に必要な情報の伝達と注意喚起・警察等との連携・正門等に設置されている監視カメラによる不審者対策・教員の学校内・学校周辺の巡回、・事務室での部外者対応と緊急時は校内放送による不審者情報の周知 <p>2. 災害に備えた教育と訓練の実施及び設備の管理</p> <ul style="list-style-type: none">・緊急避難場所ならびに避難経路・避難方法等を徹底するため、大地震発生を想定した防災訓練（8月実施）と授業中の火災発生を想定した火災避難訓練（12月実施）を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、放送による実施を余儀なくされた。・階段避難器具（イーバックチェアー）を用いた災害時の歩行困難者を想定した実地訓練やエレベーターが停電等で停止した際、中に閉じ込められた人の救出方法の講習、防火防煙シャッターの構造と遮断したシャッターの開け方の講習、垂直降下式救助袋（避難シューター）の実地訓練、消火器の取り扱いの実地訓練を例年どおり実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止せざるを得なかった。・生徒向けに、災害時の意向調査を実施するとともに、徒歩による帰宅経路を作成させることで、災害時の意識付けを行った。・各教室ごとの避難経路を明確にするために、避難経路図をコーティングし、全教室の前方目立つ位置に貼付した。・災害時を想定し、車椅子対応型マンホール直結簡易水洗式トイレを2基購入した。・令和2年度より、生徒から集金して、災害対策備蓄品として非常食の購入を始めた。また、それに伴い、防災備蓄棚の新設を行った。
----	---

<p style="text-align: center;">成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の防犯意識が高まった。(不審者情報の早期連絡と報告) ・新型コロナウイルス感染症防止の観点から、令和2年度の防災訓練は2回とも放送による実施となり、避難経路や避難方法の確認を実践することができず、生徒による学校評価では、令和元年度に比べて満足度が6%も低下して62%となり、極めて厳しい評価となった。 ・職員による学校評価で、避難経路等の徹底に関する項目(26)の満足度が、令和元年度に比べて6%向上し82%となった。防災訓練を実践することはできなかったが、各教室に避難経路の貼付を行ったことが評価されたものとする。
<p style="text-align: center;">課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制、三部制の学校のため、朝から夜間まで正門が常時開いている状況下での不審者侵入の防止が課題である。 ・令和2年度は、食堂の空きスペースに辛うじて非常食用の棚の新設を行ったが、災害時に必要な物資が1日分程度しか保管できないのが現状である。食料以外にも多くの防災備蓄品や防災設備を保管する必要があり、その保管場所を確保することが大きな課題である。市からの防災備蓄庫の供給が早急に望まれる。 ・災害時の生徒の留め置き、引き渡しの対応についての意向調査票の回収率を上げる必要がある。
<p style="text-align: center;">改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・職員向けに防犯意識の啓発活動(集会時、校内掲示等)を続ける。 ・LHRなどを通じて、災害時の対応についての周知徹底と意向調査票の提出を担任と協力し、さらなる回収率の向上を目指す。 ・災害時に生徒を留め置きした場合に必要な、3日～5日分程度の飲料水と食料の確保が必要である。

□保護者・地域等との連携協力の状況

(関連アンケート番号： 地域 4～9)

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はコロナ禍の為、地域貢献活動の実施を取りやめざるをえず、個々に感染予防の取り組みについての課題や振り返りのワークを行っている。 ・3年次生以上の「総合的な学習の時間」における「課題研究」において南区役所および南区消防と連携したテーマで取り組んでいる。制限の多い中であつたが、確実に本校生徒の取り組みが地域貢献に生かされ、積み上げあれている。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間4回、午前・午後・夜間と社会貢献活動を始めて今年で8年目となったが、今年度は実施できなかつた。地域からの評価は高いので次年度は実施していきたい。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・三部制の学校であるということと、時間割の関係などから活動する日や時間帯に制限があり、考えられる活動が制限されてしまっている。いままで積み上げてきた活動の精度をより高める必要がある。 ・特に夜間の活動では、酔客などの通行人もいるので、生徒の安全確保について一層の充実を図る必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の精度を上げる為、活動中の「あいさつ」「取り組みの姿勢」「安全な活動の為の配慮」に注意できるよう改善する。 ・一昨年度作成した、腕章と幟を最大限に活用し、その作成意図や経緯などをしっかりと職員に伝えていく必要がある。 ・夜間の活動について、南警察署との連携を強化し、活動中の巡回などを依頼する。

□学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 27 保護者 11 地域 9)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CMSによるホームページになって2年目となった。コロナ渦により昨年と比べ使用頻度は高くなったが、分掌等の垣根を越えて協力し、発信できる体制を目指した。 ・4, 5月の緊急事態宣言による休校により、学習課題を学校ホームページにパスワードをかける形式で掲載した。 ・令和2年度から学校・保護者連絡システム(COC00)を導入し、保護者からの欠席連絡だけでなく、休校期間中の職員の出退勤にも役立てた。 ・G Suite for Educationのシステムを利用し、生徒がサービスを利用できるようにID, Passwordの管理、ドライブ・クラスルーム・フォームなどの利用を推進した。 ・職員向けにZoom、Google Formの講習会を実施した。 ・校内LANのファイル整理や整備を実施した。 ・教員間メッセージアプリ(ミライム)の管理をした。 ・業務上のトラブルの対応処理に尽力した。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度(令和2年度)はコロナ感染防止関連の発信事項が多く、発信件数(アップロード件数)が大幅に増え、常に情報を発信する状況であった。生徒による学校評価のホームページ等を活用し必要な情報を提供しているかについて86%と高い評価になった。過去3年間をみてもその数値は年々高くなっている。一方、地域では同じ項目での問いに対し、56%と低くなった。おそらくコロナ渦で教育活動に自粛がかかり、発信すべき情報がなくなったことも大きな要因となっていると考えられる。 ・今年度よりCOCOO(学校と保護者間の連絡システム)により、保護者からの欠席連絡をYCANのパソコン上でリアルタイムに連絡を受けるシステムが構築できた。また、学校からのお知らせ配信も活用でき、確実に保護者に届けられるようなシステムを整えた。 ・G Suite for Educationの導入により、生徒個々にIDを配布し、Googleサービスを利用できるような学習システムを導入した。 また、Zoomでのオンライン会議などの環境を整え、職員向け研修会の開催も行った。 さらに学校Youtubeの開設を行い、コロナ渦で発表の機会を失っている部活動等に発表できるデジタル空間を提供した。

<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年に引き続き個々にホームページ掲載の呼び掛けは継続している。職員全体の意識が高まれば、よりスピーディーに最新の情報を更新できるようになるので、さらなる各部署の協力が強く求められる。 ・ 昨今の社会状況を踏まえ、保護者からのネットによる情報提供や各分掌や委員会の情報を外部向けにインターネット公開やオンライン授業などのニーズは高まることが容易に予想される。個人情報保護やセキュリティを考慮した内容でこれらに推進に努め、学校全体が迅速に取り組む必要がある。 ・ オンライン化が進む一方、デジタルデバイスを所有しない保護者・生徒も少数いる。COCOOなどの連絡システムは特に必要かつ緊急性を要するので、引き続きCOCOOによる電話での連絡システムによって、情報格差が起こらないよう努める。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ渦でますますデジタルデバイスの需要は高まっている。本校には携帯電話やPCを持たない生徒が少数ではあるがいたので、小学校や中学校で配布されたタブレットなどを横浜市立高校にも配当されるようにしてほしい。 ・ 一昨年度までの課題として「誰でもができるシステム作りと人材育成が急務」があった。職員全体が作成できるCMS（Contents Management System）の導入をし、各部署の責任下で作成する方向で改善を図った。 ・ ミライム(教職員向けグループウェア)をさらに駆使し、各分掌、団体との連携をより効率よく、速やかに行うために継続して情報公開を行っていく。 ・ インターネット公開時に利用できる写真の撮影等、事前にある程度意識を持ってもらう必要があるため、担当者間だけではなく全体で意識を高めるために講習会の実施や書面で残す必要がある。 ・ 保護者と学校をつなぐ「学校連絡・情報共有サービス」の導入を目指す。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 28、生徒 2.4.5、保護者 4、地域 3)

<p>取 組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大に不安やストレスを抱えた生徒がその発散の手段の一つとしていじめ等の行為が想定されたため、その防止策として普段以上の見守り・声掛けを心掛けた。 ・毎月1回「いじめ防止対策委員会」を開催し、各担任が記入した「いじめ認知報告書」の集計をして、いじめの状況把握に努めた。 ・「いじめは絶対に許さない」をモットーに、学校生活アンケートを実施し、人権に関する講演会を行って、問題の早期発見、早期対応に努めた。 ・いじめ問題の早期発見・早期対応のために、生徒指導部、保健室、S C、S S Wとの連携を密にし、迅速に対応するための環境づくりに努めた。 ・「横浜市いじめ防止基本方針」をもとにした「横浜総合高校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題の早期発見、早期対応に努めた。
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の「いじめ防止対策委員会」の開催により、各担任からの情報を早い段階で得ることができ、対応を検討することが出来た。 ・学校生活アンケートや人権研修会のアンケートにより、各担任が状況把握に対して積極的に対応する姿勢を築くことが出来た。 ・「いじめ防止基本方針」に沿った諸活動については、組織的に取り組んだ結果、職員の高い評価を得ることができた。 ・教育相談体制の充実により、生徒からの早めの相談が増え、教員やS C、S S Wによる早期対応を行うことができた。その結果、項目5に対する生徒の高い評価を更に高めることが出来た。
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめは絶対に許さない」のモットーをいろいろな場面で常に強く訴えていくことが必要である。 ・問題が発生した時の相談体制を常設し、話しやすい窓口を常に開いておくことが必要である。特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う相談体制の充実を進める。 ・S N Sの適切な使用法やその問題点についての指導を徹底する必要がある。
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生徒指導や教科指導を通して規範意識や思いやりの心をより一層高めさせる。 ・異年齢との関わり・異空間の体験等、地域との交流活動を通して、多くの価値観に触れ、判断能力の育成に繋げる。